

# 撮影する(基本編)

ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

## 基本的な撮影のしかた

### カメラの正しい構えかた

カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ブレを起こす恐れがあります。

• 横に持つ場合



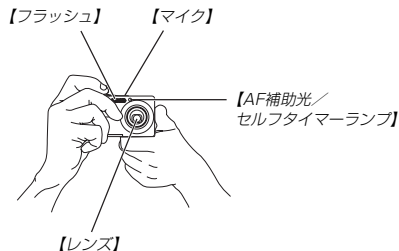
両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

• 縦に持つ場合

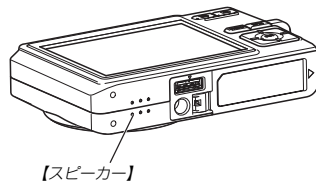


縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

**重要!** • 指やストラップが、下記の部分にかからないように注意してください。



• カメラの底面部には【スピーカー】があります。カメラの持ちかたによっては【スピーカー】がふさがり、操作音などが聞き取りづらくなることがあります。



## 撮影する(基本編)

- 参考
- 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するとき、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

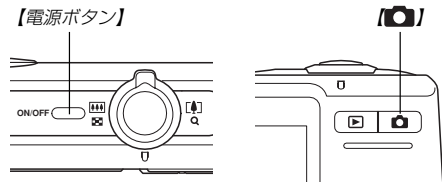
## 撮影する




本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵メモリーに保存されます。

- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC<マルチメディアカード>)に保存することもできます(130ページ)。

市販のメモリーカードを使用する場合は、あらかじめメモリーカードを入れて、メモリーカードのフォーマットを行ってください(132ページ)。

1. 【電源ボタン】または【】(REC)を押して、電源を入れます。

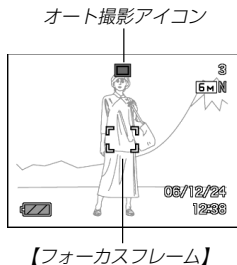


- 【液晶モニター】に画像とオート撮影アイコン""が表示されます。オート撮影アイコン""が表示されない場合は、66ページの操作で"オート"のシーンを選び、""を表示させてください。

- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、**【CAM】**を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。
  - 「ファイルがありません」と表示されている。
  - “**▶**”が【液晶モニター】の上部に表示されている。

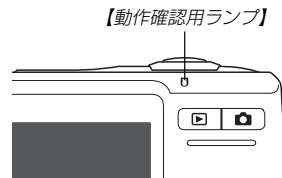
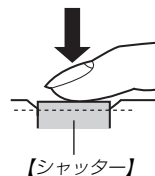
## 2. 【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(55ページ)。



## 3. 【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

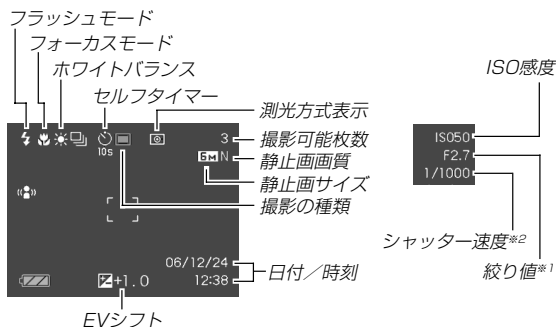
- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度、絞り値、およびISO感度が表示されます。
- ピントは【フォーカスフレーム】や【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

## 撮影する(基本編)

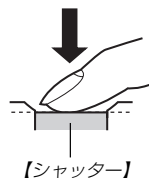
- 【液晶モニター】にはさまざまな情報が表示されます。



- ※1 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(絞り)の開口部の大きさの値です。数値が大きくなるほど、光が通る開口部の大きさが狭くなります。本機では自動的に調整されます。
- ※2 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(シャッター)の動作速度のことです。時間が長くなるほど光の量は増えます。本機では自動的に調整されます。

## 4. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって撮影できる枚数が異なります(53、54、181ページ)。

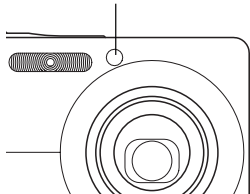


- 重要!**
- クイックシャッター(57ページ)を使用すると、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすると、オートフォーカスが作動せずに撮影されます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

## ■ AF補助光について

暗い場所などで撮影しようとしたとき、ピントを合わせやすくするために、【AF補助光／セルフタイマーランプ】で自動的に補助光を発光します。

【AF補助光／セルフタイマーランプ】



なお、このAF補助光は発光する／しないを切り替えることができます。至近距離で人物などを撮影するときは、AF補助光は発光しないことをおすすめします。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“AF補助光”を選び、【▶】を押します。


## 4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：AF補助光を発光します。

切：AF補助光を発光しません。

**重要!** • 【AF補助光／セルフタイマーランプ】を覗いたり、人の目に当てないように注意してください。

### ■ 撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池カバー】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対におやめください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(86ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(86ページ)は、被写体が暗いときに感度を上げてシャッタースピードを速くするようにしていますが、フラッシュの発光方法(48ページ)が  (発光禁止) のときには手ブレに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

### ■ オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことや正確でないことがあります。
  - － 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
  - － 強い逆光のもとにある被写体
  - － 明るく光っている被写体
  - － ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - － カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - － 暗い場所にある被写体
  - － 動きの速い被写体
  - － 撮影範囲外の被写体
- 手ブレをしているとき、ピントが合わないことや正確でない場合があります。
- 【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(61ページ)やマニュアルフォーカス(60ページ)をご利用ください。

## ■ 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の画像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画(75ページ)にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

## ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

### 光学ズーム

レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1～3倍

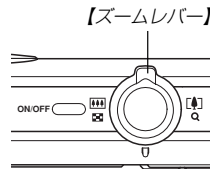
#### 1. RECモードにします。

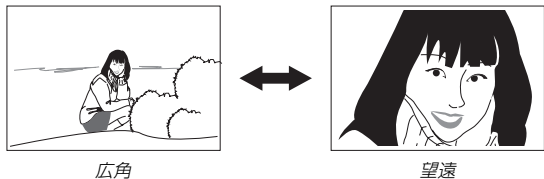
#### 2. 【ズームレバー】をスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

**[AAA]**(広角)：被写体を小さく写したり、広い範囲を写したりします。

**[Q]**(望遠)：被写体を大きく写したり、狭い範囲を写したりします。

- 【ズームレバー】をいっぱいまでスライドさせると、より高速にズーム倍率を変えることができます。





### 3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 参考**
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
  - 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
  - オートフォーカス/マクロ(接写)/マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます(56、58、60ページ)。
  - 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます(75ページ)。

## デジタルズーム

光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

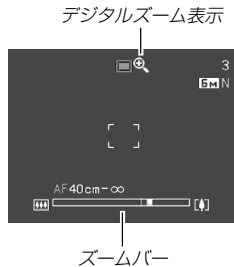
倍率：3～12倍(光学ズーム併用)

**重要!** • デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理で拡大するため、光学ズームと異なり画像は粗くなります。

## ■デジタルズームを使って撮影する

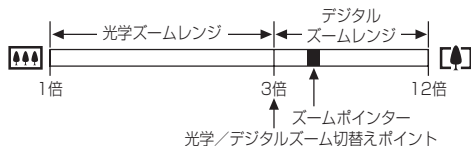
1. RECモードにし、【ズームレバー】を[**Q**] (望遠)側にスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームレバー】をスライドさせると、【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。





2. 【ズームレバー】をスライドさせて、光学ズームが最も望遠になると(ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントにくると)、いったんズーム動作を停止します。



- ズームレバーのデジタルズームレンジは、デジタルズームが“入”に設定されているときのみ表示されます(47ページ)。
3. 【ズームレバー】を[望遠]側にスライドし直すと、ズームポインターがデジタルズームレンジに入り、デジタルズームに切り替わります。
- 【ズームレバー】を[広角]側にスライドさせると、ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントでいったん停止した後、光学ズームレンジに戻り、光学ズームに切り替わります。
4. 【シャッター】を押して撮影します。

## ■デジタルズーム機能のオン/オフを切り替える

- RECモードにして【MENU】を押します。
- 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
- 【▲】【▼】で“デジタルズーム”を選び、【▶】を押します。
- 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入：デジタルズーム機能が働きます。

切：デジタルズーム機能は働きません。


- “切”を選ぶと、ズームレバーには光学ズームレンジのみが表示されます。

## フラッシュを使って撮影する

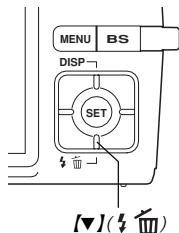
撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。  
 広角時：約0.15m～約2.8m (ISO感度オート時)  
 望遠時：約0.4m～約1.4m (ISO感度オート時)  
 ※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。

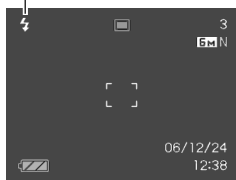
1. RECモードにします。


2. [▼]()を押して、フラッシュの発光方法を選びます。

- [▼]を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。





フラッシュモード表示





A (フラッシュオート)


：露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。

- Aは、フラッシュオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

 (発光禁止)：露出に関係なく発光しません。

 (強制発光)：露出に関係なく強制的に発光します。

 (ソフト発光)：露出に関係なく光量を抑えて発光します。


 (赤目軽減)：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. [シャッター]を押して撮影します。


**重要!** ● フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。

- ISO感度が“オート”の場合は、感度が高くなるため、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げると撮影範囲(フラッシュの光が届く範囲)が短くなりますが、ノイズは少なくなります(86ページ)。

## ■ 強制発光について

日中の撮影で、逆光などで被写体が暗くなるような場合は、フラッシュの発光方法を  (強制発光) を選んで、フラッシュを発光させて撮影してください(日中シンクロ撮影)。フラッシュの光により、被写体を明るく撮影することができます。

## ■ ソフト発光について

フラッシュの反射など光量を抑えたい場合は、  (ソフト発光) を選んで、撮影してください。

## ■ 赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するため起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

**重要!** ● 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。


- 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

## フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【動作確認用ランプ】で確認できます。



### 【液晶モニター】

- フラッシュ発光時は  が表示されます。

### 【動作確認用ランプ】

オレンジ点滅：フラッシュ充電中  
緑点灯または緑点滅\*：

フラッシュ充電完了

\* フォーカスモードがオートフォーカスモード、またはマクロモードで使用している場合、ピントが合っていないときに緑点滅になります。

## フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. [◀][▶]で“画質設定”タブを選びます。
3. [▲][▼]で“フラッシュ光量”を選び、[▶]を押します。
4. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。

+2：強く光る

+1

0

-1

-2：弱く光る



**重要!** • 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量がかわらない場合があります。

## フラッシュ撮影時の光量の不足を補う (フラッシュアシスト機能)

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。



フラッシュアシスト機能  
未使用



フラッシュアシスト機能  
使用

1. RECモードにして[MENU]を押します。
2. [◀][▶]で“画質設定”タブを選びます。
3. [▲][▼]で“フラッシュアシスト”を選び、[▶]を押します。

#### 4. [▲][▼]で“設定項目”を選び、[SET]を押します。

オート：フラッシュアシスト機能が働きます。

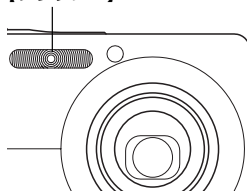
切：フラッシュアシスト機能は働きません。

- 重要!**
- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
  - 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
    - －フラッシュ光量を切り替えたとき(50ページ)
    - －露出補正(EVシフト)を行ったとき(61ページ)
    - －ISO感度を切り替えたとき(86ページ)
    - －コントラストの設定を切り替えたとき(90ページ)
  - フラッシュアシスト機能動作時、ノイズが増える場合があります。

#### ■ フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- 被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。数秒～5秒程度(フル充電の場合)
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあり、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことがあります。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときにフラッシュを $\text{ⓧ}$ (発光禁止)に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ブレを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ(ノイズが発生した画像)になる場合があります。
- $\text{⓪}$ (赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。




【フラッシュ】



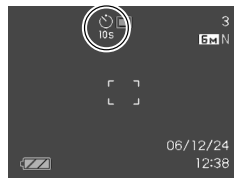
## セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“セルフタイマー”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押します。

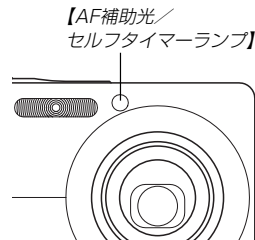
-  10秒 : 10秒後に撮影されます。
-  2秒 : 2秒後に撮影されます。
-  ×3 : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。
- 切 : セルフタイマーは使用できません。

- 【液晶モニター】にセルフタイマーの種類が表示されます。



5. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【AF補助光/セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。



- 参考**
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ブレ防止になります。
  - トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の“サイズ”や“画質”とメモリーカードの有無またはフラッシュの充電の有無によって異なります。
  - 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。  
ベストショット撮影の一部(“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”)、動画撮影

## 画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(pixels)で表したものです。この画素数は1枚の画像を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいくほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画のサイズについては、75ページをご覧ください。

1. RECモードにして[MENU]を押します。

2. [◀][▶]で“画質設定”タブを選びます。

3. [▲][▼]で“サイズ”を選び、[▶]を押します。

4. [▲][▼]で設定内容を選び、[SET]を押します。

- 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズを切り替えて表示します。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

## 撮影する(基本編)

		画素数 (pixels)	プリントサイズ
大きい ↑ ↓ 小さい	6M*	2816×2112	A3プリント
	6M (3:2)	2816×1872 (3:2)	A3プリント ※横縦比が3:2になります。
	4M	2304×1728	A4プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
	2M	1600×1200	L判プリント
	VGA	640×480	Eメール ※Eメールで画像を送りたい場合に最適です。


※ Mはメガ(100万)の意味です。

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- 本機の持つ画質を最大限に活かすために、できるだけ最大画素数(6M)で撮影することをおすすめします。なお、残り撮影枚数が少ないときや、より多くの枚数の画像を撮影したい場合は、画素数を小さく設定してください。
- “2816×1872(3:2)”を選ぶと、写真用のプリント用紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

## 画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画の画質については、75ページをご覧ください。

- RECモードにして【MENU】を押します。
- 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
- 【▲】【▼】で“ 画質”を選び、【▶】を押します。
- 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

設定内容		選択時の目安
高画質	高精細-F	画質を優先したいとき
↓	標準-N	通常の撮影をするとき
低画質	エコノミー-E	撮影枚数を優先したいとき

- 重要!** ● 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(22、181ページ)。